

主任 工藤 千枝

部員 三浦 忍

研究主題

豊かな表現力を育む音楽科教育

めざす子ども像

思いを音で表し、高め合っていく子ども

研究目標

子どもたちの表現力を豊かに育むためには、自分の思いをもたせ、表現活動をしながらかその思いを伝え合い聴き合う活動を充実させることが有効であることを実践的に明らかにする。

研究仮説

子どもたちの表現意欲を高めながら、表現に対する自分の思いをもたせるとともに、その思いを伝え合い聴き合う活動を充実させることで、豊かな表現力を育むことができる。

研究主題について

1 主題設定の理由

本校の子どもたちの多くは、歌唱、器楽、音楽づくりの表現活動に対して意欲的である。しかし、一通り表現することができればそれで満足し、表現がより豊かになるように工夫したり、表現に対する思いをもって互いに高め合ったりしていこうとする所までは至っていないという実態があった。それは、音楽のよさを感じ取り、表現したいと思っても、基礎的・基本的な知識・技能が十分に身に付いていなかったり、表現に対して自分の思いや意図をもたせる教師側の手立てを明確にして行わなかったりしたことが原因と考える。

これらを受け一昨年度までは、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせることに重点を置き、練習や音楽ゲーム等も取り入れながら繰り返し音楽活動を行ってきた。子どもたちは音楽活動に必要な基礎的・基本的な知識・技能を身に付けることによって満足感や達成感を味わい、進んで活用するようになってきた。子どもたちの満足感や達成感は、次の表現意欲へとつながっている。しかし、表現に対する思いを明確にもたせ、子どもたちが互いの表現を聴き合いながら高め合っていくという点は、まだ十分ではない。今年度も引き続き、子どもたちに表現に対する思いをもたせて互いに高め合っていくために、身に付けた基礎的・基本的な知識・技能を活用させ、思考・判断させながら繰り返し表現させることが必要である。また、表現意欲を高めていきながら、表現に対する自分の思いをもたせ、自分の表現や思いを伝え合い聴き合う活動を充実させることによって、より豊かな表現力を育むことができるのではないだろうかと考え、本主題を設定した。

2 音楽科における思考力・判断力・表現力

表現力を豊かに育てていくためには、子どもたちの音楽的な感受性を高めることが大切である。子どもたちは、音楽的な感受性によって音楽のよさを感じ取り、思いを音で表したいという意欲や願いをもつことができる。音楽のよさを感じ取る力は、音楽に主体的に働きかけ、思考・判断し、試行錯誤しながら表現活動を繰り返すことによって育まれる。子ども一人一人が意欲をもって音楽活動に取り組み、表現力を育てていくためには、互い

に音や音楽を聴き合い，学び合っていくことが大切である。その学び合いの中で音楽的な感受性を育て，自分たちの思いを音や音楽で表現する子どもたちになっていくことを願っている。また，音楽的な感受性を高め，表現活動をしながら満足感や達成感を味わわせていくことが，子どもたちの豊かな表現力を育むことにつながる。

そこで，本研究部では，音楽科における思考力・判断力・表現力を以下のようにとらえ，研究を進める。

思考力... 身に付けた知識・技能を活用しながら音や音楽で表し，音楽表現へのかかわり方を考える力。音や音楽に出会ってからどのように表現をするか自分なりに思いをもち，表現するまでの過程で試す力。

判断力... 身に付けた知識・技能を活用しながら音や音楽で表し，音楽表現へのかかわり方を決める力。自分の思いをもって音楽表現を創意工夫して表現する力。

表現力... 身に付けた知識・技能を活用しながら自分の思いを音や音楽で表し，思考・判断して表現する力。

2年次の研究の焦点

1年次では，習得した基礎的・基本的な知識・技能を活用し，思考・判断させながら子どもたちの豊かな表現力を育てていくために，(1)「自分の思いをもたせるための題材・教材の提示の仕方や発問の工夫」(2)「互いに高め合っていくための場の保障」の2点に焦点を当てて研究に取り組んだ。その結果，成果として，子どもたちは自分の思いをもち，表現活動に取り組めるようになってきた。また，図形楽譜や共通事項等の言葉を用いながら，自分の思いを同じグループの人たちや全体に伝えようとする様子が見られた。その他，聴き合う場を保障することによって，子どもたちは，互いに音の響きを聴き合い，音色や強弱の工夫をしようとする姿が見られた。しかし，表現を互いに高め合っていくことについては，まだ十分とは言えない。1時間の授業の中では時間に限りがあり，表現活動を充実しながら伝え合い聴き合う「場の保障」の時間配分が難しいという課題が残った。

そこで，2年次には，「互いの表現を伝え合い聴き合う場の保障」に重点を当てて研究に取り組む。また，子どもたちに思いをもたせることについても継続して研究に取り組む。具体的には，下記のことを研究の焦点としたい。

(1) 表現に思いをもたせ，互いに高め合っていくための場の保障。

(2) 表現の高まりを実感させられるような手立てや見取りの在り方。

(1)については，題材のどの段階で重点を置いて場の保障をしていくか，意識して取り組む。また，互いに聴き合う観点をもたせながら高め合っていけるようにする。(2)については，子どもたちが互いの表現の高まりを実感できるように，具体的な手立てを与えて思考・判断させる。また，効果的な学習形態(全体，グループ，ペア，個人等)を活用してかかわり合いや高め合いを大切にし，互いの表現が高まったかを見取っていく。

研究方法

上記2点が，豊かな表現力を育むために有効であるか，以下の手立てで検証する。

- 1 思いを音で表す場を保障することによって，子どもたちに思考・判断させ，互いに高め合うようにさせる。**a. 場の保障**
- 2 表現を高め合うために手立てを工夫することによって，互いの表現の高まりを実感させ，変容を見取りながら，指導に生かしていく。**b. 手立ての工夫と見取り**

以上2点の方法が，子どもたちにとって有効であったかを子どもたちの表現，態度，発言，学習記録等から検証する。